

◆ シネマトーラス上映スケジュール 2025年12月～2026年2月 ◆

【上映中の作品】				
◇～12/26(金) 君の顔では泣けない		当スケジュールをご持参の方は1,500円でご鑑賞いただけます。		
◇～12/30(火) ネタニヤフ調査 汚職と戦争		 CINEMA TAURUS SINCE 1998		
君と私 12/20(土)～12/30(火)	2022年/1時間58分	2014年に発生した、安山市檀園高校の生徒を含む約300人以上犠牲となったセガソ号沈没事故。その修学旅行の前日。セミは教室で不思議な夢を見た。胸騒ぎを覚えたセミは学校を抜け出し、けがで入院中のハウンの病室へと走る。一緒に修学旅行に行こうと誘うが、どこか煮え切らないハウン。セミの抱えていた感情がついに溢れ出す。		
ヒポクラテスの盲点 12/20(土)～1/2(金)	2025年/1時間50分	大手メディアが殆ど報道しない、科学と事実に基づく『驚愕』ドキュメンタリー。新型コロナウイルス肝炎で国の感染症対策は変化を重ねた。今となって様々な情報が報道され始める。新型コロナワクチンによる後遺症の問題。大変な危険を伴った賭けであったことが医学的に明らかになりつつある。新型ワクチン、「次」も打ちますか？		
兄を持ち運べるサイズに 12/27(土)～1/9(金)	2025年/2時間7分	作家の理子は、兄の急死を知られて東北に向かう。兄の元嫁加奈子、子供と再会し、兄たちが住んでいたゴミ屋敷としたアパートの片づけに目にはしたのは、壁に貼られた家族写真の数々。兄の後始末をしながら悪口を言いつづける理子。兄の知らなかつた事実に触れ、怒り、笑って、少し泣いて。もう一度、家族を想いなおす。		
ペンギン・レッスン 1/2(金)～1/16(金)	2024年/1時間52分	1970年代当時の軍事政権下のアルゼンチン。分断された国家や教育への情熱を失いかけていた教師と重油まみれの瀕死のペンギンとの偶然の出会い。その奇妙な同居生活と周囲の人々の暮らしを笑いたっぷりに描き、愛しくて思わず笑顔になってしまう本。愛らしい羽のペンギンに、世界中の人々が癒され、あたたかい感動が広がっている。		
Ryuichi Sakamoto:Diaries 1/2(金)～1/16(金)	2025年/1時間36分	「日記」に刻まれた坂本龍一。その最後の日々は、自身の日記に克明に綴られていた。ガンに罹患して亡くなるまでの3年間にわたる闘病生活とその中で行われた創作活動。貴重なプライベート映像やポートレートをひとつに束ね、その軌跡を辿ったドキュメンタリーマーク。彼は、命の終わりはどう向き合い、何を残そうとしたのか。		
WHO? 1/3(土)～1/16(金)予定	2025年/1時間40分	2024年9月、有明で行われたWHO(世界保健機関)やワクチン政策への批判を掲げる大規模デモに着目。同様のデモは各地で行われていたが、大手メディアが全貌を報じることはなかった。参加者へのインタビューを通じ、人々の切実な問題提起の真意に迫る。コロナ禍の「光と闇」を描いたドキュメンタリー。ワクチンにより効く真実の劇薬。		
風のマジム 1/3(土)～1/16(金)	2025年/1時間45分	沖縄のラム酒誕生にまつわる実話の物語。那覇で暮らす契約社員・真じむが、南大東島産のサトウキビを原料とした「純沖縄産のラム酒」の製造企画を思いつき、社内ベンチャーコンクールに応募する。やがてその企画は一大プロジェクトへと発展。家族や会社、南大東島の島民をも巻き込むヒューマンドラマ。		
手に魂を込め、歩いてみれば 1/10(土)～1/16(金) 1週間限定上映!	2025年/1時間53分	廃墟のガザで撮影を続けるフォトジャーナリスト、ファトマ・ハッスナーと、彼女を見守るイラン人監督セピデ・アルシ。1年にわたりたビデオ通話で紡がれた比類なきドキュメンタリー。ファトマはいまも明るかったが、度重なる爆撃で家族や友人が殺されていき、カンヌ映画祭上映決定の翌日、イスラエル軍の空爆がファトマ家族を襲う。		
チャップリン 1/10(土)～1/23(金)	2024年/1時間30分	チャーリー・チャップリンのルーツに迫るチャップリン家、初の公認ドキュメンタリー。プライベートフィルム、独占インタビューなどの貴重な映像とともに、彼が映画で描き続けた“放浪紳士”的ルーツを探るべく、息子マイケルが世界各地に赴き関係者やゆかりの場所を訪ね歩く。偉大過ぎる父を持ったマイケルの屈折した愛情も描かれる。		
プラハの春 不屈のラジオ報道 1/17(土)～1/30(金)	2024年/2時間11分	世界中で若者たちの理想とエネルギーが爆発した1968年。ソ連の支配下にあったチェコスロバキアでも、若者たちがデモやチラシで民主化運動を起こした。ついに“プラハの春”が訪れたと思った矢先、ソ連軍が侵攻し放送局を占拠。戦車に囲まれても市民と自由のために、命がけで実質の放送を続け闘ったラジオ局員たちの、緊迫の実話。		
星と月は天の穴 1/17(土)～1/30(金)		2025年/2時間2分	小説家の矢添は、過去の離婚経験から女を愛することを恐れる一方、執筆する恋愛小説の主人公に自分自身を投影することで「精神的な愛の可能性」を探求するのが日課だった。ある日、画廊で偶然出会った大学生の瀬川紀子と、彼女の相手をきっかけに奇妙な事情へと至り、矢添の日常と心が揺り始める。	
栄光のバックホーム 1/17(土)～1/30(金)		2025年/2時間15分	元阪神タイガースの横田慎太郎さんの自著『奇跡のバックホーム』を基にしたノンフィクション作品。将来を懸念されながらも、21歳の若さで脳腫瘍を発症。過酷な闘病を経て引退試合で見せた「奇跡のバックホーム」は人々を驚かせ感動を呼んだ。だが、奇跡のドラマは、その後にも続いているのだ…。彼を支え続けた家族や仲間に絆を描く。	
喝采 1/24(土)～2/6(金)		2024年/1時間50分	プロードウェイの第一線で活躍してきた大女優リリアン・ホールは、公演を間近に控えている。ところが認知症を患っていることを告げられる。人生のすべてを舞台に捧げてきた彼女は、病気の事実を胸に押しつぶし、公演をやり遂げる決意をするが、現実と妄想の境目で迷徬。はたしてフィナーレを飾る舞台に立つことができるのか…。	
はだしのゲンはまだ怒っている 1/31(土)～2/6(金)予定 1週間限定上映!		2025年/1時間30分	不朽の反戦漫画「はだしのゲン」の誕生から現在を見つめるドキュメンタリー。広島の原爆で家族を失った少年ゲンの物語が、なぜ今も人々を熱くさせているのか。閲覧制限問題や平和教材からの削除といった議論、戦火の絶えない現代社会を背景に、作者・中沢啓治が遺した「怒り」と「願い」の真意を、関係者への取材を通して浮き彫りにする。	
チャック・ベリー 1/31(土)～2/13(金)		2020年/55分	ロックンロールの創設者で、人種や世代の壁を越え、後続のアーティストと文化・社会に圧倒的な影響を及ぼしたチャック・ベリーへのトリビュートとして、PBS(アメリカの公共放送)のために制作されたドキュメンタリー。“あなたの音楽は俺たちの中に永遠に刻まれている—ミック・ジャガー” “偉大で純粋なロック作曲者—ブルース・アーリング・スティーブンズ”	
ポンヌフの恋人 1/31(土)～2/13(金)		1991年/2時間5分	現代フランス映画界に燐然と輝く純愛映画の傑作。パリのポンヌフ橋を舞台に、天涯孤独で不眠症の大道芸人アレックスと、失恋の痛手と眼の奇病による失明の危機から自暴自棄になった画家ミシェルが会う。工事中の橋の上で、荒廃した日々を送りながらも激しく愛し合う二人の姿を、圧倒的な映像美と热量で描き出した。	
安楽死特区 2/7(土)～2/20(金)		2025年/2時間9分	今から数年後の日本。安楽死法案が可決した。国は実験的に「安楽死特区」を設置することに。回復の見込みがない難病を患ったラバーパー、そのパートナーのジャーナリストカツブル。安楽死法に反対のふたりは、特区の実態を告発するために入居を決意。明日、この国で現実に起るかもしれない世界觀を描いた衝撃作。	
小屋番 八ヶ岳に生きる 劇場版 2/14(土)～2/27(金)		2026年/1時間25分	“コヤガタケ”と呼ばれるほどたくさんの山小屋が存在する八ヶ岳。そんな日本百名山に選定された名峰の数々をもつ連峰を、山岳写真家の菊地哲男と巡っていく。小屋を営む道を選んだ人々、自然と真正面から向き合ふ過酷な日常を選んだ理由とは？“山”そして“命”を知る小屋番たちの言葉が、いま生きをましたたちの心をほぐしていく。	
ダウントン・アビー/グランドフィナーレ 2/14(土)～2/27(金)予定		2025年/2時間4分	TVシリーズ開始から15年、ついに完結——20世紀初頭の英國貴族と使用人たちの人間模様を描いた大ヒットシリーズ。舞台は1930年のロンドン。長女メアリーの離婚スキャンダルが一家の名聲を揺るがし、屋敷の存続危機が浮上する。伝統と変革の間で描れるクローリー家が下す「最後の決断」とは。	
黒の牛 2月中旬公開予定!		2024年/1時間54分	今は昔、急速に変わりゆく時代の中で、自然との繋がりを見失った狩猣民の「私」は、自分の分身とも言える牛と出会う。「私は農民となって牛と共に大地を耕しながら、木、水、風、霧、土、火、万物とのつななりをただ静かに視つめ、刻み、運る—禪に伝わる「牛十圖(じゅうぎょうゆうず)」から着想を得て、内なる宇宙と森羅万象をめぐる旅。	
<休館日> 12月:22日(月)・23日(火)・31日(水) 1月(予定):1日(木)・13日(火)・19日(月)・26日(月)・27日(火) 2月(予定):2日(月)・9日(月)・10日(火)・16日(月)・24日(火)			《シネマトーラスからのお知らせ》 シネマトーラスでは来年度から毎週月曜と火曜を休館日にすることを検討しています。 尚、休館日が祭日になる場合は随時、事前にお知らせします。	